

湖都通信



67

2011.10.1

『湖医会賞』受賞者決定! 2~3
社長業 10 年 4
海外からのメッセージ 5

学生のページ/若鮎祭 6~7
LITTLE WINDOW 8

2011年度

総会のご案内

出欠・委任状は
返信用紙、メールで!
10月26日(水)必着

◎ 創立30周年記念事業 2012.1.7~8 『Home Coming Day』

同窓生が母校に集い、大学の発展・進化を認識し、同時に旧交を深めていただく日です。湖医会賞受賞者の講演や医1期生によるパネルディスカッション、学内見学ツアーなどを計画しています。是非、本学に帰ってきてください。

医学科卒後30年、20年、10年の同期会が同日開催されます。

◎ 第10回 湖医会賞 — 受賞者 —

研究領域

理化学研究所ゲノム医科学研究センター
内分泌代謝疾患研究チーム・チームリーダー
前田 士郎氏 (医5期生)

臨床・福祉、その他の活動領域

公立甲賀病院 眼科医長
岡田 明氏 (医18期生)

(詳しくは2~3ページをご覧ください)

◎ 第25回「湖医会」総会

10月29日(土)
基礎講義実習棟2階
B講義室 15:00~

<議題>

- | | |
|----------------|--------------|
| 1, 2010年度事業報告 | 4, 2011年度予算案 |
| 2, 2010年度決算報告 | 5, 役員を選出 |
| 3, 2011年度事業計画案 | 6, その他 |



一人でも多くの会員のご出席をお待ちしております。なお、ご欠席の場合は、同封の委任状の提出にご協力ください。メールでも OK です。

「必ずできる」と信じて



理化学研究所ゲノム医科学研究センター

内分泌代謝疾患研究チーム・チームリーダー

前田 士郎

(医5期生)

このたびは名誉ある『湖医会賞』に選出頂き、ありがとうございました。今回対象となりました私達の成果は自分の腕一本で築き上げてきたわけではなく、多くの患者様と滋賀医科大学をはじめ国内外の共同研究者、スタッフのご協力の上に成り立っております。本来であれば個人受賞にはふさわしくないと思案いたしましたが、生まれて初めての受賞でもあり、感激のあまり、厚かましくも受賞させて頂く事といたしました。長年ご指導賜っている繁田先生（名誉教授）、吉川先生（前学長）、柏木先生、羽田先生（現旭川医科大学）、古家先生（現金沢医科大学）をはじめ先輩同期後輩の諸先生、ご推薦頂いた前川先生ならびに選考委員の諸先生には心より御礼申し上げます。受賞にあたり私が歩んできました道のりと対象となった研究についてご紹介させて頂きたいと思っております。

学生時代から臨床医時代

学生時代はラグビー部に所属しておりまして、この時代の事をほじくりかえされますと受賞が取り消されるかもしれないと不安になります。ご記憶の皆様には「あの士郎が」ということで暖かく見守って頂ければ幸いです。卒後は当時の第3内科に入局し、腎臓グループに配属となりました（この間にも多くの失態がありました。関係の諸先生本当に申し訳ありません）。1996年からは大学病院において優秀な部下に助けられ（本人達にとっては迷惑であったと思います。許して下さい。）主に腎疾患診療に従事しておりました。同

時に糖尿病腎症の遺伝学的研究にも携わっていましたが、思うような成果は得られず、悶々とした日々を過ごしておりました。

運命が変わった1時間

2000年初頭、大学で日本のゲノム研究を牽引している中村祐輔先生の講演を聞く機会がありました。恥ずかしながら私は理研も中村先生の名前も全く知りませんでした。当時、中村先生は、ゲノム全域にわたり生活習慣病の関連遺伝子を探し出す研究（ゲノムワイド関連解析といいます）を世界に先駆けて実現するため、ゲノム医科学研究センターの設立準備を進めていました。中村先生の講演は1時間くらいだったと思います。1カ所を調べるのに1ヶ月もかかっていた時代に、30億塩基対に及ぶヒトゲノム全域を調べて関連遺伝子を探すという壮大な構想に、とにかく圧倒されました。私はこの講演を聞いて、吉川、羽田両先生のお勧めもあり、大学を辞めて理研のゲノム研究センター設立に参加することを決断しました。やっと日雇いからスタッフになったばかりだったので妻には“どうして？”と責められました。が……。

理化学研究所での10年間

私どもの仕事はゲノムワイド関連解析というもので、糖尿病などの疾患集団と対照集団において特定のDNA配列の個人差（遺伝子多型といいます）を解析し、疾患と強い関連のある遺伝子領域（疾患感受性遺伝子）を同定する事です。初めは糖尿病腎症について100人ずつの疾患

対照で10万カ所の遺伝子多型を調べる事から始めました。その後2型糖尿病にも解析を上げたものの7,8年程は鳴かず飛ばずで、このままでは事業仕分けで一卷の終わりかという状況でした。転機が訪れたのは2007年、この年ゲノムワイド関連解析が全世界で一斉に花開きその成果が次々に発表されました。2008年私どものチームからも強力な2型糖尿病感受性遺伝子領域[KCNQ1]を初めて日本発で発信し、ようやく世間でも研究の意義を認めて頂けるようになってきました。

オーダーメイド医療を目指して

現在は数万人について200万カ所以上の遺伝子多型を解析しています。これらの成果は、疾患発症機構の解明や新規治療法の開発に結びつくとともに個人個人の違いを明らかにする事でオーダーメイド医療を実現すると考えられています。しかしながら皮肉な事に多くの事が明らかになればなるほど、感受性遺伝子領域を単に同定するだけでは全く不十分で、臨床に役立つ情報とするにはさらなる困難が立ちふさがっている事も分かってきました。現在までに2型糖尿病では40余の確かな疾患感受性領域が同定されています。数年前までは一つも分かっていませんでしたので確かにゲノムワイド関連解析は大きなブレイクスルーをもたらしたといえます。が、この情報を持ってしてもオーダーメイド医療に貢献するにはほど遠い現状なのです。まだまだ長い道のりのようですが、今回の受賞を励みとして、必ずできると信じて前に進みたいと思っております。

アイキャンプに感謝

公立甲賀病院 眼科医長

岡田 明 (医18期生)



術翌日回診(その場で指数弁の確認)を行う筆者(左)

インド・ダラムサラでのアイキャンプ継続活動について『湖医会賞』を頂けることを知った時、アカデミックな業績ではないこともあり驚きました。アイキャンプとは、医療施設の無い地方の町や村にも眼科医療の恩恵を受けてもらうために、ネパールやインドで行われている野外開眼手術活動です。私自身、過大な受賞に戸惑いながらも、これまで共に活動してきたアイキャンプ・チームの皆で大変喜んでおります。これまで実際に活動してきた仲間、応援・ご支援して下さった方々や協賛組織、年末年始の活動中に自分たちが不在の職場や家庭を守って頂いた同僚や家族・関係してきた皆で頂いた賞です。副賞については今後の活動の為に使用させて頂きます。参加し始めた頃、日本で手術を一人担当させて頂くことに1000円をアイキャンプ貯金として、自分で自分に寄付しておりました。200人の担当をさせて頂いてやっと20万円です。



アイキャンプでの手術

年末が近づき貯金が増えてくるにつれ、その1年間で担当させて頂いた患者さんの顔が浮かび、無事アイキャンプへ参加できることに対する感謝の気持ちが沸き起こりました。逆にインドで学んだことは翌年から自分の仕事場で還元できるよう行動しました。インドで担当させて頂いた

患者さん、病状について懸命に質問する御家族、そして何よりチームワークを教えてもらった「仲間」に感謝しながら1年間で過ごし、また次のアイキャンプを迎える…そういう繰り返しでした。また受賞記念講演という機会を頂いたことで、少しの興味と少しの勇気があれば国際医療協力活動に参加できることを、特に学生の皆さんにお伝えできることを嬉しく思っております。そもそも私自身がアイキャンプという言葉すら知らなかった眼科医だったからです。

兵庫県西宮に本部を置くアジア眼科医療協力会では、インド・ダラムサラで2000年からこれまで11回のアイキャンプを実施し、チベット難民および周辺に住む貧困層インド人の進行白内障患者に手術治療の機会を提供してきました。ダラムサラはインド北西部ヒマラヤ山麓最西部の斜面に位置する辺境の町です。この地のチベット難民コミュニティにはチベット亡命政府が直轄してきたDelek病院がありますが、そこに眼科医はいません(眼科助手のみが勤務しています)。これまでの活動や調査を通して、チベット難民でも特に難民1世には言語や文化の違いからインド人社会に対する障壁を感じ、視力低下を自覚しても地元のインド州政府立Zonal病院を受診しない者が多くいることが判明しました。また亡命政府であるが故に、政府間レベルの援助事業が成り立ち難いことも判明しました。このようなチベット難民コミュニティに適切な眼科医療を提供するために、Zonal病院へと向かうチベット人患者の自然な流れを生み出す基盤作りの一環として、Zonal病院に勤務するインド人眼科医とチベット難民コミュニティ間の交流が親密になるよう、第三

者である日本人による眼科医療協力を両者間の「架け橋」と位置づけ、これまでアイキャンプを主体とした活動を行ってきています。

この11年間で、Zonal病院に勤務する地域唯一のインド人眼科医に、診察・手術指導も行ってきました。彼は顕微鏡下での手術経験は皆無でしたが、現場での技術指導により、自己閉鎖創を用いた白内障手術を執刀できるレベルに達しました。また、チベット人眼科助手がプライマリ・アイケアを担い、彼の手に負えない患者をインド人眼科医へ紹介受診させる、人種の壁を越えた連携体制が確立しつつあります。本アイキャンプにより、貧困層にあるインド人患者にも恩恵がもたらされることにより、社会的弱者であるチベット難民の当該地域における存在意義が高まる側面があることもわかってきました。

このアイキャンプ活動によって、“われわれ自身が育てられている”と考えています。救われているのは、チベット人やインド人の患者さんではなく、われわれ自身です。アイキャンプが、どれほど「眼科医」としての“情熱”を高めてくれたことでしょうか。この活動に参加できることに、深く感謝しております。



ダラムサラの風景

医師は病院の外でも活躍できるか？



「あなたに最適な情報で乳がんを克つ」

「湖医会」会員の皆様こんにちは、
1983年卒医学科3期生の宮内です。

私は現在、乳腺専門医として診療に携わると同時に、乳がんを中心に医療全般に関する情報を提供するコンサルタント会社『プレストサービス株式会社』の代表取締役をしており、今年でちょうど起業10年になります。このたび乳がん患者さん向けに出版した本を「湖医会」に寄贈した際、私の事業の10年の歩みと近況等を湖都通信で紹介せよとの渡辺会長からの依頼をお受けし、寄稿させていただきましたこととなりました。

私は母校卒業後、千葉大学旧第一外科に入局し乳腺外科ならびに乳腺細胞診を専門として学位を取得後、'91年より千葉県がんセンター外科に勤務しました。当時年間約200例の乳がん手術を手がけ、日本乳癌学会評議員、センチネル班研究班員など臨床、学会活動、研究などに携わり、2000年にはがんセンター初代の乳腺外科科長に就任しましたが、公的病院医師の立場では、自分の能力や専門性を十分に発揮することはできないと判断し、2001年にセンターを退職、プレストサービス社を設立した次第です。

医者が株式会社の社長とは、いったい何をしている会社だ？と、不思議に思われる方が多いと思いますが、プレストサービス社は、『医療がより快適に正しく行われるように、医師（専門医）が経験した知識という情報を、診察室（病院）の外で様々な方達に提供する』会社、つまり医療行為以外で医者が活躍する企業なのです。

情報提供をする相手先とその内容を具体的にご紹介しましょう。

- 1) 患者さん、家族、一般の方、メディアに対して：医療相談やセカンドオピニオンの提供、講演会講師、患者会顧問医、メディアの制作物に対する医学監修、原稿執筆（今回の出版もこの仕事です。原稿料と印税は会社の収益になります）
- 2) 医療関係者に対して：医師会、薬剤師会や院内の勉強会講師
- 3) 製薬、医療機器メーカー、CRO派遣会社など医療関連企業に対

プレストサービス株式会社 代表取締役

宮内 充 (医3期生)



して：メディカルアドバイザー（顧問医）契約、社内研修の講師、病院見学研修のコーディネーター（実はこれらの事業が最たる収入源です）などです。

大企業などが進出しにくい小規模な専門的市場や、これまで注目されていなかった分野に着目し新しい販路を開発して生み出された産業は「すきま産業」と呼ばれますが、プレストサービス社はまさにそのようなアイデア勝負の会社なのです。おかげさまで多くの方々や多くの企業（現在までに10数社）とお付き合いをさせていただいて、会社の収益も年々順調に伸びています。

私は臨床医として絶好調の40歳代前半に県がんセンターの科長職を辞し起業しましたが、皆様の中にも開業や職場替えについて悩まれ、ご自分の将来を再考中という方がいるかもしれません。もし今の自分の能力に見合う評価（役職や報酬）が得られていないと感じたり、今の職場で働く10年後の自らの姿が思い浮かばないのなら、ためらうことなく『翔ぶ』ことを奨めます。実は全国の乳腺専門医の中に、私の起業を見て踏み切りが付いたと、クリニックを開業したり医療関連の新しい資格を取得したりと、新たな環境の医者人生を始めた仲間が何人もいます。

現在私は、千葉大同門の先生方の乳腺クリニックや検診センターでの診療の仕事と会社の仕事が、携わる時間も報酬もちょうど半々です。どちらが本業かと聞かれたら「どちらも本業です」と答えます。もともと患者さんと接することが大好きですし、さらに、もし私が臨床から離れると専門医としての経験や知識という「会社の商品」は錆びてしまいます。生涯私は、乳腺専門の臨床医かつ最新の医療情報を提供する会社の代表で居続けたいと思っています。

・プレストサービス株式会社 <http://www.bsvc.co.jp/>

・著書「あなたに最適な情報で乳がんを克つ」著者：宮内充、出版：二見書房

amazonから購入できます。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった渡辺会長のご厚意に深く感謝いたします。母校と「湖医会」のますますの発展をお祈りいたします。

ザンビア便り



『安全なお産支援グループ』
ボランティアさんたちと：啓発劇披露後

はじめまして。看護学科7期生の酒井浩子です。2010年8月より、南部アフリカに位置するザンビア共和国にNPO法人TICOのスタッフとして駐在し、ザンビア農村部の女性が安全に妊娠・出産ができるような環境づくりを目指すプロジェクトに携わっています。

同窓会幹事の一人として「湖医会」スタッフの方とメールでやりとりをする中で依頼があり、今回寄稿させて頂くことになりました。

「留学私話」を、とのことでしたが、私の場合は留学経験はなく、欧米など華やかな先進国の話でもありませんが、ザンビアでの活動の話を紹介し、これを読んだ方が少しでもザンビアについて、草の根レベルの保健分野での開発プロジェクトについて知って頂ければ幸いです。

私が赴任しているザンビア共和国は、南アフリカ共和国から空路で北へ2時間、日本の2倍くらいの国土に約1200万人が暮らす内陸国です。主食は“シマ”と呼ばれるトウモロコシの粉を水で練りながら火にかけたもの。これを「トマト&塩味」に味付けした野菜や鶏や魚などのおかずと一緒に食べます。公用語は英語ですが、73の部族があり、実際に使用されている部族語は多様。宗教は、キリスト教を信仰している人が多くいます。

保健指標をみると、平均寿命46歳、合計特殊出生率5.7、妊産婦死亡比590（出生10万対）、5歳未満児死亡率141（出生1000対）（*全てユニセフ子ども白書2011より）と、今後改善が期待される国です。

私たちの活動地は、ザンビアの首都ルサカから約100km北上した農村地域に位置しています。TICOは2007年からプライマリーヘルスケア事業をこの地域で実施してきました。ザンビアの農村部では医療施設やスタッフの数が極端に少ないだけでなく、交通の便も悪く、助産師など資格をもった介助者の介助なしに自宅で出産する人が今も多く、緊急時に適切な判断や処置ができなかったために、交通手段が確保できなかったために、妊婦さんが分娩中に命を落としてしまうこともありました。さらに、医療施設以外で起こった妊産婦死亡は公的機関へ報告されることすらほとんどありませんでした。

このような状況を何とかしようと、現地の診療所と住民と一緒にTICOが2010年10月より3年間、JICA草の根技術協力事業の支

NPO法人TICOザンビア事務所
保健医療専門家

酒井 浩子 (看7期生)



援を受け、『地域住民が支える安全な妊娠／出産事業』を行うことになりました。主な活動内容は、コミュニティレベルで妊産婦保健に携わる保健ボランティア人材の育成と『お産を待つ家』の建築です。

日々の仕事の中では、主役は現地の関係者で私たち日本人はあくまで裏方ということに常に心に留め、関係各機関との情報交換や調整業務、必要な研修の洗い出しや内容チェック、モニタリング・評価・報告等を行っています。プロジェクトが終了した後も、コミュニティの人たちが自立し、必要な限り活動を継続していくことができることが大切で、そのための土台作りを行っています。

会議開始が3時間遅れるなんて日常茶飯事（それでも皆集まって来るところがすごいと感心さえしてしまいます）、活動地に行くまでの凹凸道で車は頻繁に故障、買い物のおつりを誤魔化されていないか要チェック、など日本とは違うストレスを感じることもある一方、地域をよく知り、よくしようと頑張っているザンビアの人から学ぶことは本当に多く、そんな人たちと一緒に仕事ができることをとても嬉しく思っています。集団を相手にする公衆衛生でも、基本は一人一人の個人と個人との関係。これからも関係者との信頼関係を大切に、よりよい活動ができるよう、裏方として現地の人達と一緒に取り組んでいきたいと思えます。

遠い国ではありますが、お近くにお立ち寄りの際には是非遊びにいらして下さい。



村での巡回診療・乳幼児健診の様子



差し入れありがとうございました!

第63回 応援キャンペーン

「西医体 西コメ等」



ハンドボール部・ヨット部470級の優勝
と今年も好成績が生まれました。
「西医体・西コメ等」応援キャンペーンへの協力をはじめ学生に
声援を送ってくださったみなさんありがとうございました!



西医体連覇を果たすことはできませんでしたが、プレイヤー8名、マネージャー4名という少数のメンバーでベスト8という結果を残すことができたのは、顧問の浅井先生、OB・OGの先輩方のお力添えのおかげでございます。本当に有難うございました。これからも部員一同精一杯頑張りますので、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。
(男子バレー部)

お陰様で470級で優勝できました。ご支援ありがとうございました。
(ヨット部)

今年度の西医体はベスト16という結果に終わりました。ご支援、ご声援をいただいた多くの皆様、誠にありがとうございました。この結果に満足することなく、一つでも上を目指して精進してまいりますので、今後とも応援よろしくをお願いいたします。
(ラグビー部)

OB・OGのみなさま応援ありがとうございました。おかげさまで創部初の総当たり全勝を成し遂げることができました。最後に力尽き、優勝を逃してしまいましたが、今後も優勝目指しががんばりますので、変わらぬご声援をお願いいたします。
(ソフトボール部)



来年は今年よりも良い結果を残せるように頑張りますので、応援よろしくをお願いします。
(サッカー部)

総合優勝のタイトルを取り返すため、この1年頑張ってきましたが、結果はダメでした。この悔しさを忘れずに来年頑張っていきたいと思えます。応援ありがとうございました。
(端艇部)



僕たち水泳部は今年の西医体で、個人で高田真央が200m個人メドレーで1位、100m背泳ぎで2位、山本大雅が200m個人メドレー、400m個人メドレーで共に5位という良い結果を残せました。リレー種目では入賞できなかったのが残念ですが、他の者も多くの自己ベストを更新することができました。これも、OB・OGの皆さまのご支援のおかげです。ありがとうございました。今後ともご支援よろしくをお願いします。
(水泳部)



西医体に向けてご寄付を頂きまして、ありがとうございました。今回は惜しくもベスト8止まりという結果でしたが、OBの先生方のご支援を受け気持ちよくプレーすることができました。これからもよろしくをお願い致します。
(野球部)

いつもお世話になっております。テニス部前主将医学科4回生の茶谷と申します。本年度の西医体及び西コメへのご支援誠にありがとうございました。その結果をご報告させていただきます。医学科男子は初戦を富山大学と戦いD0-3,S1-2(打ち切り3)の計1-5(打ち切り3)で敗退しました。医学科女子は初戦を山口大学と戦いまして、D1-1,S1-2の計2-3で惜敗しました。看護学科は初戦を徳島大学と戦いまして、D0-2,S0-1(打ち切り2)の計0-3(打ち切り2)で敗退しました。日頃よりのご支援ご指導に答える結果とは言い難いものになってしまいました。部員一同、今回の結果を真摯に受け止め、日々の練習に邁進していきたいと思っておりますので、これからも変わらぬご支援ご指導をお願い申し上げます。
(硬式テニス部)

OBの先生方にはいつもお世話になっております。剣道部です。去る8月6、7日に西医体が行われました。残念ながら予選リーグ敗退という結果に終わりましたが、選手全員、各々課題を見つけ、今後の稽古に活かして生きたいと思えます。秋は練習試合、秋季関西医歯薬と試合が続きますが、新チーム一丸となつてがんばっていききたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。
(剣道部)



いつも応援ありがとうございます。西医体は思うような結果が残せませんでしたが、より良い成績が残せるようこれからも部員一同精一杯頑張っていきたいと思えます。今後とも応援よろしくをお願いします。
(卓球部)



若鮎祭

第37回



秋涼の候、先輩方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、今年も若鮎祭の時期が近づいてまいりました。若鮎祭も今年で37回目を迎えます。
本年度は「絆-さずな」をテーマに掲げることになりました。3月11日東日本大震災という未曾有の
天災を経験し各地で復興が叫ばれております。我々も学生という身分ではありますが、少しでも復興の
一役を担える活動を学園祭を通じて行っていきたいと考えております。

今年度は、聖路加国際病院副院長の細谷亮太氏、離島医療に従事されてきた瀬戸上健二郎氏、による講演会を開催いたします。
また、医科大学ならではの、医局展や健康チェックなどのブースを設けております。そのほか、豪華商品が当たるビンゴ大会や、聴い
て楽しむ軽音・アカペラライブ、来場者参加型のクイズ大会など楽しい企画をご用意しております。

ご多忙とは存じますが、ご家族・ご友人などをお誘いあわせの上、是非お立ち寄りいただきたいと、実行委員会一同心より願っております。

若鮎祭実行委員長 織辺圭太

メイン企画

♪講演会 ☆臨床講義棟2F 臨床講義室3
10/29(土)
◎ 細谷亮太氏
『目に見えない大切なもの～子供たちの生と死を見つめて』
14～16時 映画上映会「風のかたち-小児がん仲間たちの10年」
(細谷氏監修、伊勢真一氏演出。平成21年度文化庁映画賞受賞作品)
16～18時 細谷氏 講演会

10/30(日)
◎ 瀬戸上健二郎氏 『島とともに～医師の使命と島民との絆』
11～13時 講演会

♪ちびっ子向け企画
動物園(30日のみ)・縁日・ボールプール
似顔絵・プラバン・プラネタリウム

♪その他企画
アロマキャンドル作り・ヘアメイク&ネイル
占い・カフェモナリザ・整体・献血etc...

ステージ企画

☆10/29(土)☆

<メインステージ>

10:00 開会式
10:30 イントロクイズ
11:00 競え「絆」3番勝負
12:00 軽音LIVE
14:30 心のミスター
15:00 クイズ
16:00 コスプレ鬼萌え
16:30 アカペラ
17:00 Mr.Ms.中間発表
18:00 KOE

<サブステージ>

10:30 大胸筋
11:00 パイ投げ
12:00 エスパー
13:00 ワンピースクイズ
13:30 部活対抗ものまね
14:30 AKBクイズ
15:00 笑ってはいけない

☆10/30(日)☆

<メインステージ>

10:00 アカペラ
10:30 うたへた
11:00 滋賀医相撲大会
12:00 絆プロジェクト
13:00 キリキリSUMS
14:00 お笑いLIVE
15:00 ビンゴ大会
16:00 アカペラ
17:00 Mr.Ms.結果発表
18:00 フィナーレ

<サブステージ>

10:00 プロ野球クイズ
12:00 大道芸
13:00 ガリガリSUMS
15:00 アカペラ

☆☆詳しくは、<http://www.shiga-med.ac.jp/~wakaayu/top.html> にて随時情報更新中☆☆



Home Coming Day

13:00～ メインイベント

①大学の「現在」を聞く

大学首脳との懇談

②湖医会賞受賞者の講演

授与式と講演

③医1期生の企画

パネルディスカッション

16:30 終了予定

第10回『湖医会賞』
授与式及び受賞記念講演会
2012年1月8日(日)／臨床講義室 3

2011年度 滋賀医科大学看護学科 保健師部会からのお知らせ

初秋の頃、保健師の皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様は日々それぞれの現場でご活躍されていることと思います。

今年度も恒例の保健師仲間との交流会を開催します。是非ご参加ください。

なお、詳細は後日郵送いたします。

平成23年度会員名簿

2012年3月発行予定の会員名簿は、**3年分**(2008・2009・2010年度)の「湖医会」年会費を納付された方にお送りいたします。会費納入にご協力ください。

なお、今号の「情報フォルダー」は名簿作成中につき、掲載無しとさせていただきます。

記事募集!! 「湖都通信」がリニューアル

次号「湖都通信」は、「湖医会」創立30周年の記念号として発行します。また、これを機会に装いも新たな「湖都通信」をお届けしていきます。どうぞご期待ください。

会員のみなさまからの掲載記事を募集しています。テーマは、特に指定はありませんが、タイムリーなもの、シリーズで掲載できるものなど、随時受け付けていますので、どしどし事務局までお寄せください。

《参考テーマ》

- ・自画自賛
- ・つぶやき
- ・開業苦労ばなし
- ・わたしの研究テーマから
- ・地域の病院で想う
- ・体験1年生
(勤務医・看護師・研修医 etc)
- ・海外から 留学私話
- ・近況ひとこと

お知らせ

「湖医会」年会費の自動引き落とし

口座振替をご利用の方は10月12日、
一般VISAカードの方は10月15日となります。



なお、便利な口座引き落としのご利用をご希望の方は事務局までご連絡ください!!

東日本大震災義援金に寄附

同期会(医10期卒業後20年会及び医20期卒業後10年会)の
剰余金 430,264円を、東日本大震災義援金として
日本赤十字社を通じて寄附しました。

総会の委任状は、メールまたは同封封筒にて
必ず返信下さい。 e-mail: koikai@koikai.org

ご協賛
ありがとうございます
ごさいます

扶桑薬品工業株式会社 / 株式会社 カイゲン / キッセイ薬品工業株式会社
テルモ・クリニカルサプライ株式会社 (順不同)